

教材使用報告書

1	機関名：シベリア連邦大学教育科学センター（日本センター）
2	報告者名：瀬尾 和
3	使用教材名：「ロールプレイ玉手箱」 嶋田和子・西部由佳・酒井祥子 著
4	使用クラス概要： クラス：会話クラス 日本語学習歴：1年半～4年目の学生 レベルと人数：初級2名、中級2名 1週間あたりの授業時間：90分 総授業数：10回
5	新しい教材を使用した目的： 「誘う」や「断る」など場面毎に必要な文型・日本人らしい会話の進め方を教えるため
6	教材使用例：メインテキスト 授業概要：1テーマを2授業時間で行う 1. ウォームアップの絵を見ながら表現を考え・発表する（教師は板書） 2. 1で出てきた表現と類似するものを板書し、用法を確認する 3. RPを選び、ペアで会話をする （教師は会話を聞き訂正する。また必要な言葉が出てきたら教える。 会話終了後会話の中でどんなところが良かったか、また悪かったかなどを聞く） 4. 教師を混ぜて目上の人との話し方を学ぶ ※穴埋め問題、表現のまとめ、シチュエーションカード（少しだけ文を簡単にしたもの＋自作）なども活用した 宿題：.RPを選び会話例を作文する（訂正後、次回の授業で全員にフィードバック） 参考資料：添付 1. 穴埋め問題 2. 問題教科書内に出てくる表現のまとめ 3. シチュエーションカード
7	教材を使用した成果、効果： ・「問題のある会話」と「適切な会話」は非常に有効であった。両者を比較することにより、ロシア語での丁寧な話し方と日本人の会話の進め方が類似していることを認識し、結果として日本的な会話の手順を理解・運用できるようになった。 ・相槌や、クッション言葉など普段の授業ではなかなか取り上げることのない、実用的なテーマを導入できた。 ・類似表現を整理、新しく知る機会が得られた。

8	<p>教材について、使用しにくかったところや、今後の課題など：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「アルバイト」や「推薦状のお願い」などは日本にいる学生にとっては身近なシチュエーションだが、実際に日本語を使う機会が少ない学生にとっては想像が難しいのではないかと思う。 ・会話の肝となる箇所に下線はあるものの具体的説明が少ないため、その都度他の教材を参照する必要があった。表現についての説明やまとめなどがあれば、もっと使いやすくなる。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の展開例や構成にこだわりすぎずテーマと表現を絞って教えることが必要であると感じた。またシチュエーションに関しては各個人の体験をベースに、想像しやすいものを提示していく必要がある。
---	---

9 その他、「日本語教材セミナー」についてのご意見、ご感想があれば、教えてください。